

演習 I

担当者 鎌苅 宏司

開講時期 通年 単 位 4

●講義の概要

研究のあり方と研究の進め方を概説したうえで、各自が関心を持つ研究テーマをめぐり具体的論点をひとつひとつ話し合います。

その過程において、学習等が必要となる事項や課題解決方法について、逐次、概説を行います。

●講義の到達目標

研究テーマに関する先行研究の見つけ方、読み方、論点整理の仕方、自分の見解を提示する方法、論証の仕方など、修士論文の作成に必要な基本的研究事項を修得することができる。

それと同時に、自分の研究テーマを具体的に示し、論文の形にしてゆくことなど、修士論文を作成するための基礎的な研究能力を修得することができる。

●講義計画

前期は、はじめに、研究の方法に関する概説を行います。次に、各自が研究テーマを絞り込み、テーマを特定できるまで討論時間を十分に持ちます。各自が研究テーマを特定できた後は、関連する先行研究のレビューを通じて、研究テーマに関する論点を明確化できるように指導します。また、研究テーマが実証（態）分析を必要とする場合には、実証（態）分析の仕方を概説するとともに、各自が入手した文献や資料・データを整理してゆく方法を指導します。

後期は、前期における研究進捗状況を見て、研究テーマの再確認、研究課題（リサーチ・クエスチョン）の明確化、何を明らかにできれば研究目的に近づくかを一緒に考えます。その後、研究の方向性を明確にしつつ、先行研究のレビューや実態把握を継続してもらいます。期末には、研究内容を小論文にまとめるよう指導します。

●成績評価基準と方法

成績評価の基準は、平常点として報告や討論について50%と期末の小論文について50%の計100%で成績評価とします。

成績評価の方法は、次の三点です。

1. 各自の研究関心や問題意識を適切に提示し、研究上の論点を絞り込むことができているか。
2. 研究に必要な調査方法や分析手法を理解し、ある程度、修得しているか。
3. 研究テーマを的確に把握し、検討すべき事項を理論的・概念的・実証的に分析し、研究内容を論理的に展開する能力を向上させているか。

●テキスト又は参考文献

テキストは使用しません。必要に応じて参考文献を指示し、資料を配布しますが、差し当たり次の三冊をあげておきます。

参考文献

小浜裕久・木村福成『経済論文の作法 [増補版]』日本評論社、1998年

石原武政『「論理的」思考のすすめ 感覚に導かれる論理』有斐閣、2007年

伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年

●受講上の留意点

研究を行うのは受講生自身であることを理解し、自ら積極的に調べ、分析し、まとめてゆくこと。

何を明らかにしたいのかを常に自問自答すること。

学習成果を小論文の形で残すことができるように努力すること。